



第7号

1995.10



社団法人 千葉県緑化推進委員会

FOREST STORY

森林のはなし

PART 3

房総に残る、

巨木林発見！

“大きな木”といわれてすぐにイメージするのは境内の御神木。そう、囲いがあって、幹の回りにしめ飾りのあるスギとかクスノキとか…。でも、あるといっても普通はせいぜい1〜2本といったところ。ところが房総には胸高直径で1m(注)を超える巨木が、なんと100本以上も群生しているというではありませんか。国内でもこれほどの巨木林は珍しいとのこと。いったいなぜこのような巨木林が、現在まで残っているのか。今回はその謎に迫ります。

巨木林が房総丘陵中央部南面、金山ダム周辺の打墨県有林内(鴨川市金山)で発見されたのは、ごく最近のこと。1991年の環境庁による巨樹・巨木林調査(緑の国勢調査)でもまだ記載がありませんでした。ただし、そういった調査とは別に、常々山に入っていた県林業試験場の小平さんから研究員の方々は、うすうすその存在を知っていたようです。

その“うすうす”のベールが剥がされる日が来ました。1993年の「千葉県保護林整備調査」や、その後の調査によって、ついにその地域が徹底的に調査されることになったのです。

調査の結果、胸高直径1m以上のものは159本。そのうちスダジイが116本と大半を占め、ほかにモミ20本、イヌシデ11本、ヤマモモ・イチイガシ・ホルトノキ・エンコウカエド各2本、ウラジロガシ・アカガシ・スギ・ケヤキ各1本とあります。なかでも最大のもは胸高直径2.5mにも及ぶスダジイで、ほかに2m以上のスダジイが2本見つかったそうです。シイの木が直径2m以上もの巨木に成長するには、少なくとも200年がかかるといわれています。長い歴史を経た老木。それがこのようにまとまって残っていたのは、まさに奇跡といえるのではないのでしょうか。



▲ 林の中で最も美しく、最も大きく見える木。胸高直径は2m



▲ 林の中で最大のシイ。胸高直径が2.5mもある



▼ 沢から巨木の森をのぞく。縦に走っているのはケヤキの根



▲ 神々しさを感じさせるシイの巨木。このような巨木が100本以上も群生しているのである



シイ巨木群の謎

謎を解く

百科事典によると、シイ(スダジイ)はブナ科シイノキ属の常緑高木で、通常、樹高20~25m、胸高直径60~80cmになり、林は薪炭木やシイタケ原木として利用される、とあります。シイは利用度の高い木なわけです。普通であれば、若い時にはおじいさんのしば刈りの対象にもなりましょう。成長し、薪炭としてちょうど良いサイズになれば、山の持ち主は切ろうとしたはずですが、金山ダム周辺の山の林も薪炭に利用されていたとのことで、現在でも炭焼釜の跡が残っているそうです。それなのにこれほどの巨木群が残されていたのは、いったいなぜなのか。

最大の理由は山の深さにありそうです。

現在でも金山ダムの人家から奥のシイの巨木林までは、徒歩で片道3時間以上もかかります。しかもまともな道などはありません。沢を進むか、尾根づたいに歩くしかないのです。そのうえ山は標高のわりに急峻で、沢は蛇行しており、かなり険しい道中なのです。ましてや金山ダムができる以前のことであれば、道程はもっと遠かったことでしょう。

炭にしろ、薪にしろ、背に負って歩く量には限度があります。そんな深い山からではなく、なるだけ近くの山里か

ら切り出して、作業効率を良くしたいと考えるのは、ごく自然なことではないでしょうか。その結果、山深い打墨のシイは切られずに残ったのです。

残って大きくなった木は、いよいよ切り出しが難しくなり、だれも手を入れることができなくなり、巨木となって群生することになったのでしょう。その広さは10ha以上に及び、もちろん県内では最も広く、国内でも有数のものとして残ったのです。

山深いゆえに残されたシイの巨木林。このような巨樹・巨木の存在は、単に豊かな森林資源や、優れた自然環境を象徴しているだけではありません。育林技術の面からいっても、成熟した森林生態系の見本として、多くの示唆を与えてくれるのです。そういった意味からも、長く見守っていかねばならないのは、いうまでもありません。

注 環境庁編「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木」によると、巨樹・巨木の規定は胸高幹周300cm(直径でおよそ1m)以上のものとあるので、これに準じた

取材協力/千葉県林業試験場育林研究室長 小平哲夫さん
写真提供/加藤守男さん(香取支庁)、
小平哲夫さん、福島成樹さん(千葉県林業試験場)



清閑した巨木林。ところどころに見えるモコモコしたのが一本の木。紅葉しているのはイロハモミジとオオモミジ

千葉の散歩道

都川源流 探検 [千葉市]

千葉市の母なる川で、 自然美・再・発・見!

千葉市の母なる川、都川。水源から河口までがすべて市内を流れ、長さは支流を含めると数10kmに及びます。下流域は都市化されていますが、さかのぼって行くと豊かな自然に出会うことができます。今回は田園風景が広がり始める千葉東ジャンクションあたりから上流への源流を探しての散歩道をご紹介します。

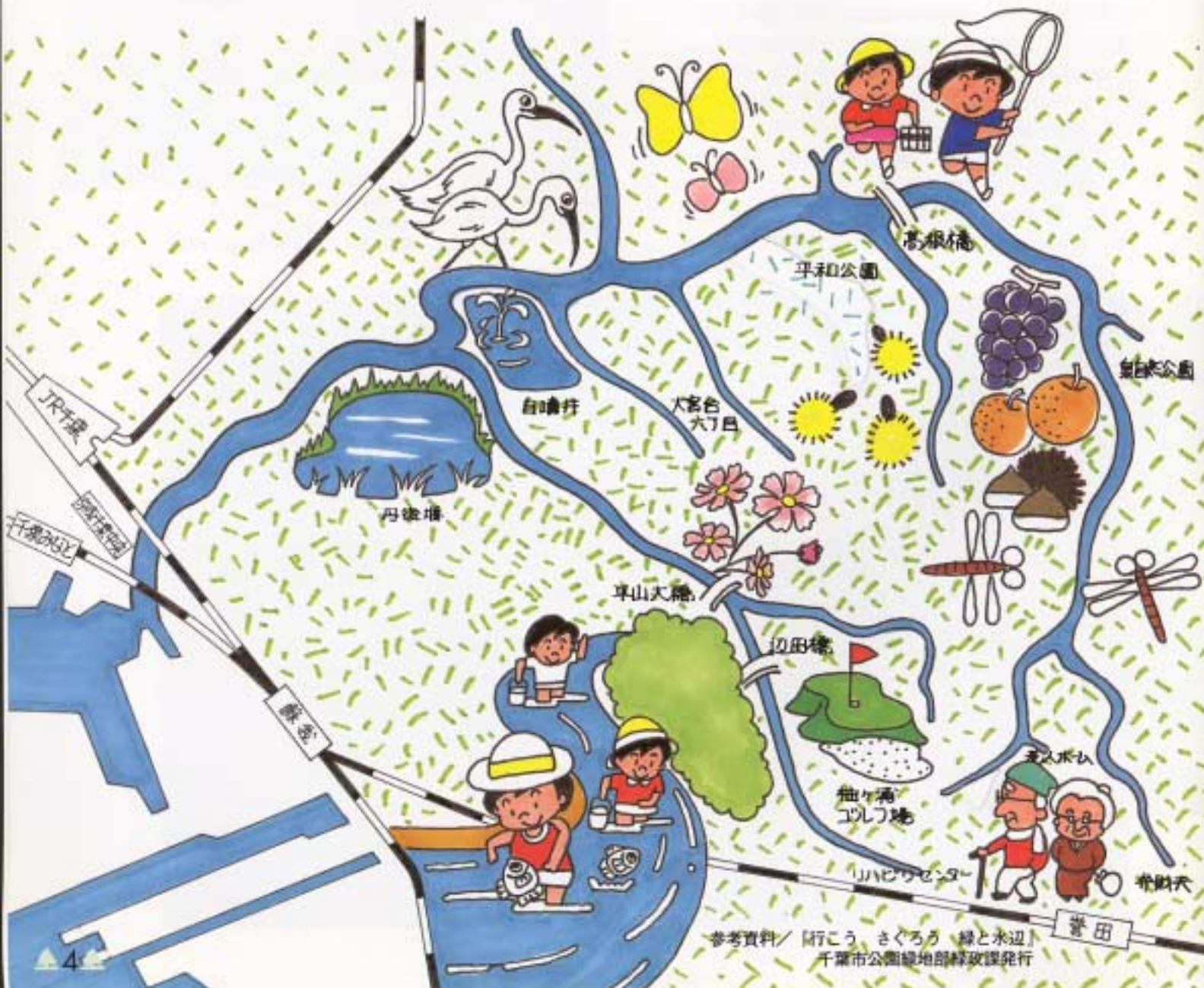
ところで、都川と呼ぶのは高根地区の高根橋まで。そこから上流は排水路なのだそうです。今回訪ねた源流は全部で7カ所。都川本流の大宮地区2カ所、

誉田地区3カ所、支川都川の平山地区とリハビリセンター裏にそれぞれ1カ所という内訳です。平山地区を除く6カ所は、まさしくコンクリート製の排水路。清水が湧き出たり、清流がチョロチョロ流れるといったイメージが望めるのは平山地区だけです。

また、特別に都川に沿って遊歩道があるわけではありませんので、川べりを歩いたり、少し離れたりという道程になります。川を見失わないためにも、地図は必ず持参してください。

丹後堰の跡

江戸時代の1613年、都川の水を分けて、干ばつに苦しむ千葉の西南部一帯を潤そうという計画が進められた。現在の立合橋付近に堰を設け、ここから水路を開き、亥鼻の台地のすそを回って長洲、寒川、今井方面に至る数キロに及ぶものであった。今ではコンクリートの溝や暗きよになっているが、跡は現在でも残っている。



知ってエッペン! 秋の七草図鑑

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロといえ、ご存知、お粥に入れて食べる春の七草。一方、あまり知られていないのが秋の七草。観賞を目的として選んだ秋草七種をい、「万葉集」巻八に取められた山上徹良の歌に

秋の野に咲きたる花を指折り
かき数ふれば七種の花
秋が花尾花尾花なでしこが花
をみなえした藤袴 朝顔の花

と、日本の代表的秋草が詠まれたことに始まるのだそうです。花より団子の法則どおり、春の七草に比べて今一つの知名度。しかしそれゆえに、知っていればエッペンできること間違いない。しかも、観賞目的で選抜されたくらいですから、美貌そろいという点では春の比ではありません。というわけで紹介します。秋の七草のメンバーです。

参考資料／『野草大図鑑』
『暮らしの歳時記』
写真提供／吉野橋（千葉市在住）



●ハギ

別名鹿鳴草ともいわれ、歌や絵の題材として、よく鹿と組み合わせられる。根、茎、葉は乾燥させて煎じると、強壮、頭痛、めまいに効果がある。花期は種類にもよるが、早いもので6月から咲き、遅いものは10月まで咲く。



●オバナ

ススキの雅名。カヤともいう。尾花は本来、花穂をさす。ススキの語源はすくすく立つ木のような草、あるいは神楽に用いる鳴物用の木、すなわちスズの木の意味と考えられている。中秋の名月に飾る風習がある。花期は8～10月。



●クズ

花は、ブドウに似たほのかな甘い香りがする。根はクズ粉の原料となる。葛根湯は風邪薬として知られる。空き地、崖、林縁などをたくましく覆ってしまう勢いの良いつる植物である。つるの長さは10m前後。豆果がなる。花期は8～9月。



●ナadeshiko

カワラナadeshikoのこと。オミナeshi同様、古くから親しまれてきた花で、枕草子にも登場する。名前の由来は、色も形もかわいらしいので、愛児になぞらえ撫子となったといわれる。本州以南の山野や海岸にはえる。花期は7～10月。

●オミナeshi

漢字では女郎花と書き、万葉時代から多くの歌に詠み込まれている。歌ばかりでなく、枕草子や徒然草などの随筆にも登場している。また「女郎花」と題する能もある。盆花とも呼ばれ、抹香の香りがする。花期は8～10月。



●フジバカマ

別名香草と呼ばれ、乾かすとクマリンの香り（桜もちの葉の香り）がするので、頭や衣服につけたり、湯に入ると良いとされる。奈良時代から観賞用に栽培され、河原の土手などによく見られたといわれるが、現在ではあまり見ない。花期は8～9月。



●アサガオ

アサガオの意味として、キキョウ説、ムクゲ説、ヒルガオ説、アサガオ説と意見が分かれているが、キキョウ説をとる場合が多い。キキョウの根は鎮咳、排膿などに薬用として使用される。日当たりの良い、乾いた所を好む。花期は8～9月。



緑 自 慢

今は柿、ブドウ、ナシの収穫期。果樹園には、生徒たちが丹精を込めて作った果実が、りっぱな実を結んでいます。明治30年創立の千葉県立茂原農業高等学校。間もなく100年を迎えます。約20haの敷地には校舎、運動場のほかに阿久川を挟んで実習用の田畑、温室、牛舎、鶏舎、牧草地が広がります。農業、生産、生活、造園など7科に分かれ、持続可能な発展を目指した農業を学習。県内唯一の農業特別専攻科もあり、農業を学びたい人に門を開いています。

そして、夷隅郡岬町には約15haの演習林があります。「全校生徒966人が皆で、山遣りを担っています」と、石井征之教頭先生。先輩から後輩へと受け継がれ、年間行事にもなっている演習林実習。校長先生始め108人の全職員も参加します。まず、5月に3年生全員参加の下刈り作業。厄介な篠竹の繁殖、害虫による松枯



害や台風による杉の倒木など、自然を守り育てる作業は大変です。9月には1年生全員での下刈り作業。そして1~2月は、2年生がクラス(8学級)ごとに除伐、間伐、枝打ち、篠竹切り、新植木に目印の竹棒を立てる作業をします。レクリエーションを兼ねながら勤労精神、協調性、自然保護を学んでいるのです。昼にはとん汁や焼きそばを作って食べます。「汗をかいた後の水はおいしいですよ。作業を終えた後の弁当の味も格別。皆、自然の中でのグルメです」と、演習林長の鶴見武道先生。すべてが貴重な体験です。

ほかにも演習林で、5校間連携講座、森林環境講座を開校。公益信託木豊会林材振興奨励基金の25万円を得て、平成5年4月にケヤキ、コナラ、クスギなどの植樹が行われました。平成6年5月からは、ウールマルチ(雑草を出にくくするため、樹木の根元に敷く草)を利用した下刈り省力化と材木保護に関する実験を開始。演習林での活動は意欲的です。「自然を回避してはだめ。自然から学び、ふれあう喜びを感じてほしいんです。土の中も含めた森林生態系、山はおもしろいですよ」。鶴見先生の人気の炭焼き講座も10月14日・15日、演習林で行われます。

オススメします。 この本……

と題
屋久島の時間—
水と緑の12か月
星川 淳 著



縄文以来の森に覆われた世界遺産の島・屋久島。ふとこころの深い自然の中で、半農半著の生活を送りながら、四季折々の暮らしぶりを綴った書き下ろしエッセイです。1年を通して苛酷な自然に翻弄されながらも、豊かな自然に育まれていくさまを見“自前の生活”を語ります。

工作舎 定価1,957円(本体1,900円)

カラー図鑑「山菜・木の実」
—自分で採って、自分で味
かためための徹底ガイド—
山口 昭彦 著



安心して山菜や木の実を楽しむために、毒草などの解説や、食べておいしいものと健康に役立つものを、旬の写真を添えて紹介。さらに、山菜料理、果実酒の作り方など、本書一冊で採り方から食べ方まで網羅します。

十分に山の幸を味わってください。

成美堂出版 定価1,300円(本体1,262円)

※抽選で左記の本を、各2名の方々にプレゼントします。ハガキに希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント係」へご応募ください。また、グリーンエッセンスをどこでご覧になったか、ご意見、要望もお書き添えください。宛て先は8ページの右下参照。締め切りは11月30日(当日消印有効)。当選者は発送をもって発表にかえさせていただきます。

「みどり通信」 マイシャッターチャンス



'94年5月10日、君津市内にて撮影

市川市・加藤 晃さん (33)

「花の自己主張」

当地へ引っ越して2年目の事でした。1年目のゴールデンウィーク明けには、通勤途中にある生け垣を見ても「あぁ、ツツジが咲いているな」としか思わなかったのです。2年目は前回と異なり、競うように咲いている見事なツツジの花を見て、心を大きく動かされました。後日、改めて撮影したのがこの写真です。

県内の緑(自然)をテーマに撮影した写真を募集中です。撮影日時、場所、コメントを書き添えて前記の要領で「マイシャッターチャンス係」へ。

掲載された方には、オリジナルレホンカードを差し上げます。



企業の中の緑

キヤノン厚生年金基金
スポーツパークちば（千葉市若葉区）

千葉市若葉区の更科、御殿、中田町に渡って広がる“若葉スポーツゾーン”。中でも一番大きなスペースを占めるのが“キヤノン厚生年金基金 スポーツパークちば”。平成5年10月1日にオープンしました。同施設は、世界をリードする精密機器メーカーのキヤノンが、厚生年金加入員、受給者やその家族の健康とリフレッシュを考えたスポーツ施設として開設。なんと約11万平方mもの敷地には、全天候型テニスコートが10面と野球場があり、サッカー・ラグビー場は1周400mの本格的なアンツーカートラックに囲まれています。ほかには、アウトドア派に人気のバーベキューガーデンや多目的広場、オシャレなクラブハウスがあります。赤い屋根のクラブハウスは、自然と調和し、優れた都市景観の形成に寄与する建築物として平成6年11月、一般建築部門で千葉市優秀建築賞を受賞しました。

そして、それらの全施設を静かに取り囲むのが高木、中低木からなる約33,000本の樹木。敷地の西側から、春夏秋冬ごとに種類を分けて植えられた樹木は約120種類。梅、桜に始まりサルスベリ、ハギ、ツバキ、またはクスノキ、ケヤキ、イチョウなど四季折々に楽しめます。樹木管理は業者に委託していますが、広大な敷地のため大仕事。たえまぬ労力と愛情で、豊かな緑を造り上げているのです。「自然の中でのスポーツは、体を鍛えるという目的プラス、ストレス解消にもつながります」と、所長の武田調好さん。



「これからは調和と共存の時代。緑との調和を考えたスポーツ施設だから、企業だけでなく地域の人たちとの共存も考えていきたい」とも。うれしいことにこの施設、ウィークデーの月・木・金曜日は一般にも開放。2時間単位の面貸料金で、テニスコート、野球・サッカー・ラグビー場が利用できます。「今はまだ樹木もやっと根づいた状態。どんどん大きくなって森になって…。森の中のスポーツ施設になったら素晴らしいですね。10年、20年先が楽しみです」と武田所長。こうした共存こそが、緑が生き延びる原点のような気がします。そして、着実に夢は現在進行形なのです。



各企業より 緑の羽根募金にご協力いただきました。

次の各企業から、職場基金や募金箱設置にご協力をいただきました。

千葉トヨペット株
日本電信電話株 千葉本部
東京電力株 千葉支店 T E P C O 地球館
東京ガス株 千葉事業部
東日本旅客鉄道株 千葉駅
千葉そごう
千葉三越



このほかにも、市町村や工場連絡協議会などを通じてご協力いただいた企業もございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

森林・緑化基金 寄附金ありがとうございました。

（株）加藤造園
（社）千葉県治山林道協会
（社）千葉県猟友会
天明道心教会
村田 正彦
（株）東武百貨店 船橋店
ドンクリバッチ募金箱
日本信販（株）グリーンナリーカード
G G G 協力ゴルフ場
大多賀町森林組合
信和造園土木（株）
林造園土木（株）
総武造園土木（株）
山武造園土木（株）
株東城園
株マスマヤ
株共栄園緑化土木
フタバ緑化産業株
千葉県造園建設業協同組合
親山田緑地建設
街橋本屋造園
吉野造園（株）
鹿村建設（株）
千葉営林署
中野 八郎
伸和ビジネス（株）
石橋測量設計（株）
香樹園緑化建設（株）
中村 圭一

※寄附者総数28
※平成7年1月から6月まで。順不同
敬称は略させていただきます。